2024 年度　卒業生を対象とした大阪医科薬科大学看護学部卒業生に関するアンケートのまとめ

卒業生

1. 調査目的

・本学における教育内容やサービスの改善のため、卒業生に対し、在学中に受けた教育内容やサービス等が現在の仕事に活かされているかなどについてアンケート調査を行い、教育改善の参考資料として活用する。

2. 調査期間

・2025 年 1 月 6 日～2025 年 1 月 31 日

3. 調査対象

・2021～2023 年度 本学看護学部卒業生 249 名
（2021 年度：82 名、2022 年度：82 名、2023 年度：85 名）

4. 調査方法

・無記名自記式質問紙調査（Google Form）を実施した。依頼文には、個人や団体が特定できるかたちでの公表はしない旨を明記した。

5. 調査項目

・調査項目は、1）卒業生の属性（入学年度、取得免許）、2）看護実践能力の自己評価、3）本学の社会資源サービスの活用状況、4）今後のキャリアアップの希望、5）本学の学部教育の目標に対する学びの有益性、6）本学の進路・就職サポートについての満足度、7）本学看護学部に期待すること、とした。

6. 調査結果の概要

・67 名から回答が得られた（回答率 26.9%）。その概要は、以下のとおりである。

1）自己評価が高かった項目は「看護実践や自己の成長のために、他者の支援を求めること」「「チームの一員としての自分の役割を認識した行動をとること」などであった。また、自己評価が低かった項目は「後輩や学生の指導をすること」「緊急時の対応をすること」であった。ほぼ、前年度と同様の結果であった。

2）本学の社会資源サービスの活用状況として図書館を活用している学生が多い。サークル活動の支援に参加や、割合は少ないものの看護学部教員からの学会発表のサポートやキャリアアップの相談といった活用も認められた。

3）今後のキャリアアップについて、最も多かった意見は認定看護師であり、看護管理者、教育・研究者と続いた。大学院博士前期課程進学を考えているものもおり、本学の卒業生のキャリアアップに生かすことができるよう、進学に関する情報提供を在学中から行っていく必要がある。

4）学部教育の目標に関する学びは、臨床現場で概ね役立っていたが、「国際的に通用する新しい知識や技術を創造できる能力の育成」については、「役立った」と回答した者が昨年同様に少なかった。

5）進路・就職サポートについては、「国家試験対策」「就職・進学に対する相談体制」「将来の進路について考える教員が充実」「就職ガイダンス」の満足度が高かった。一方で、インターンシップなど学外での職場体験制度の案内やキャリアサポートルームの利用については満足度がやや低かった。

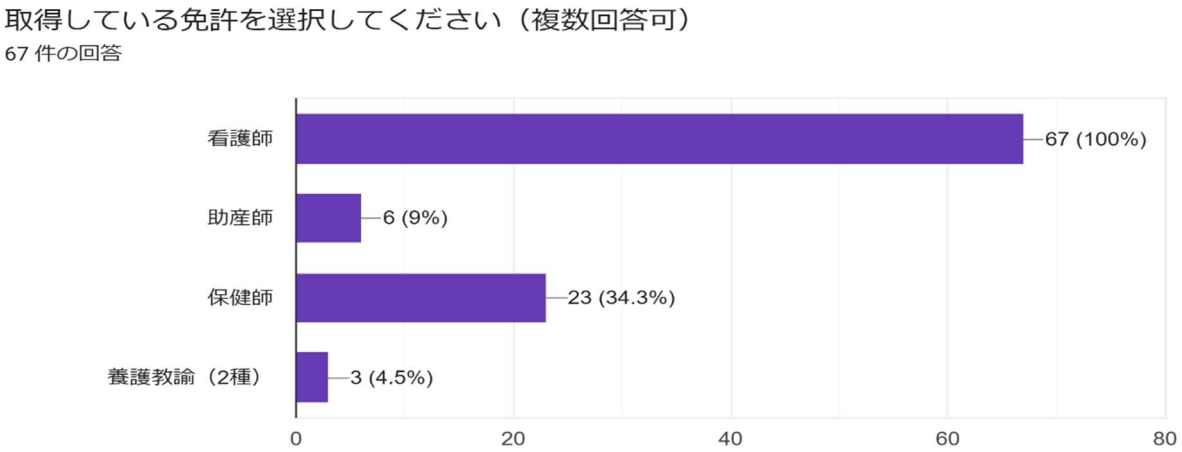
6）本学の看護学部教育への期待としては、「臨床・臨地との協力」「図書館の充実」「研究機関としての発展」「教育カリキュラムの充実」「地域貢献」を期待する意見が多かった。

Ⅰ．卒業生の属性について

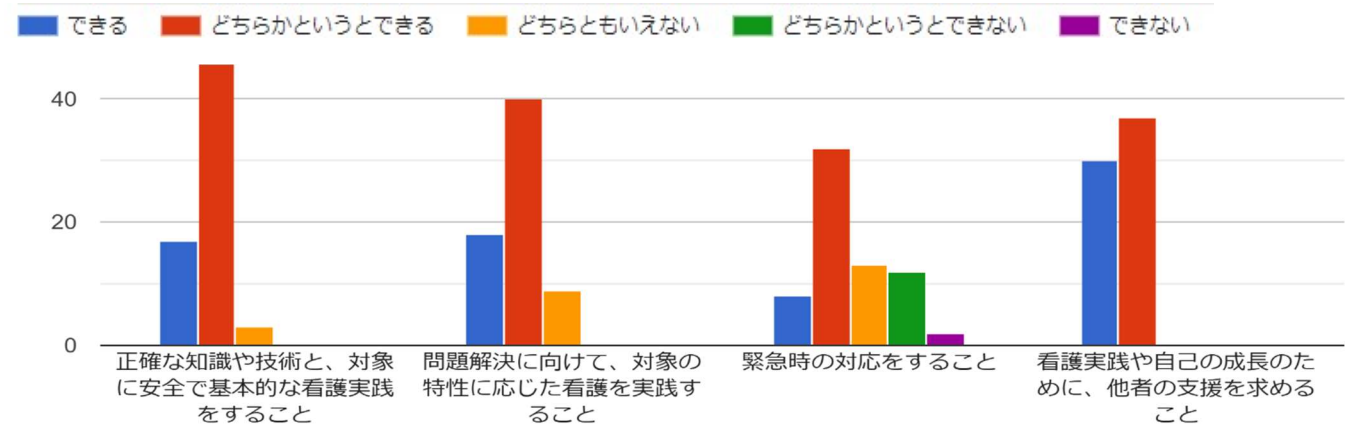
1.　卒業年度

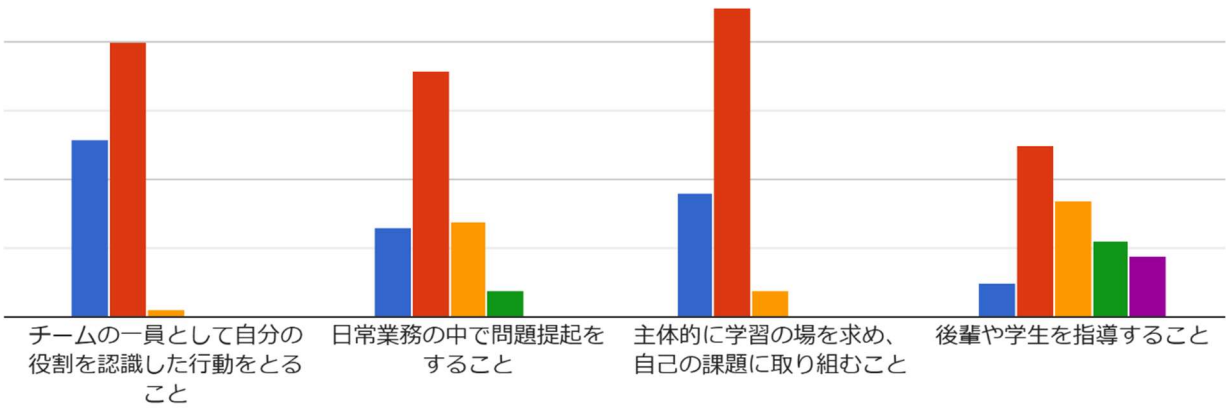
・2023 年度卒業生が 27 名（40.3%）、2022 年度卒業生が 17 名（25.4%）、2021 年度卒業生が 4 名（6%）、その他 23 名（28.3%）であった。

2.　取得免許



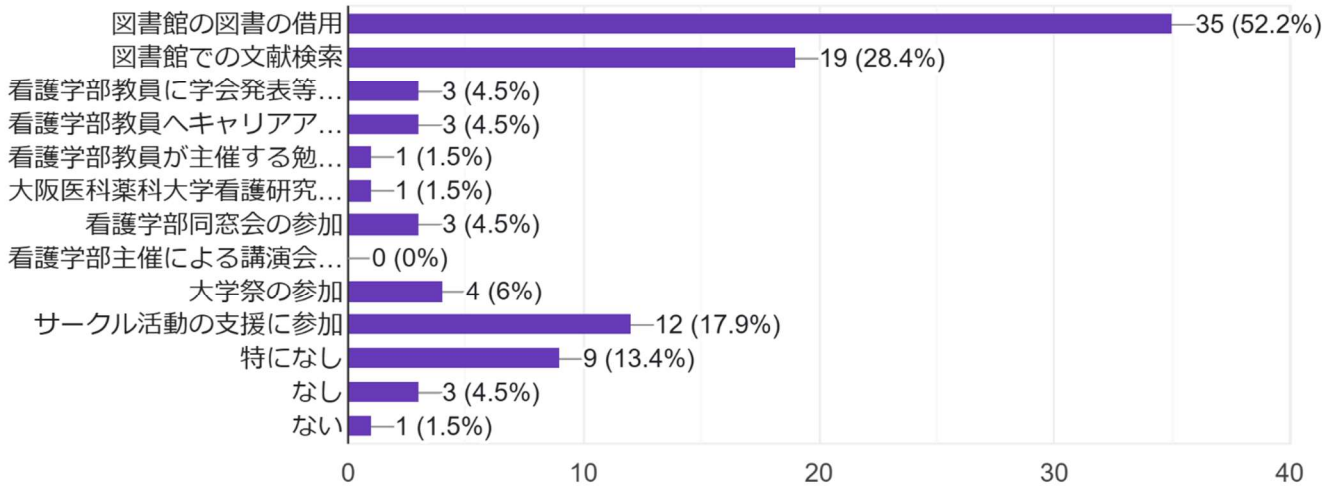
Ⅱ．看護実践能力の自己評価





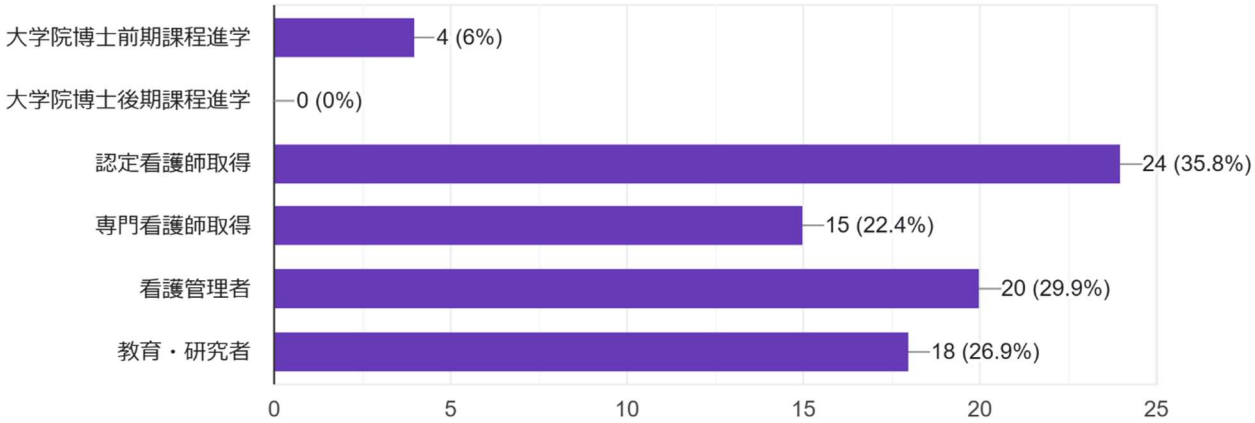
Ⅲ. 本学の社会資源サービスの活用状況

本学における社会資源（サービス）の活用状況について選択してください（複数回答可）
67 件の回答

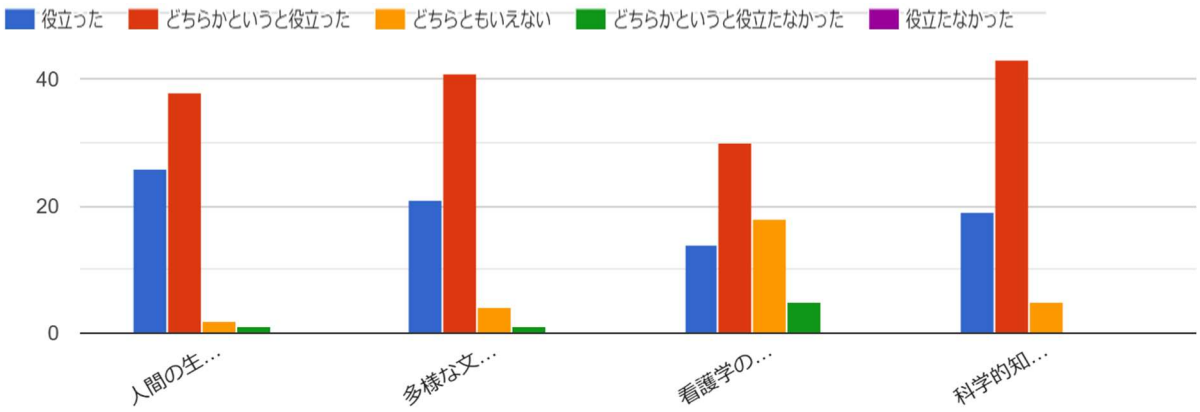


Ⅳ. 今後のキャリアアップの希望

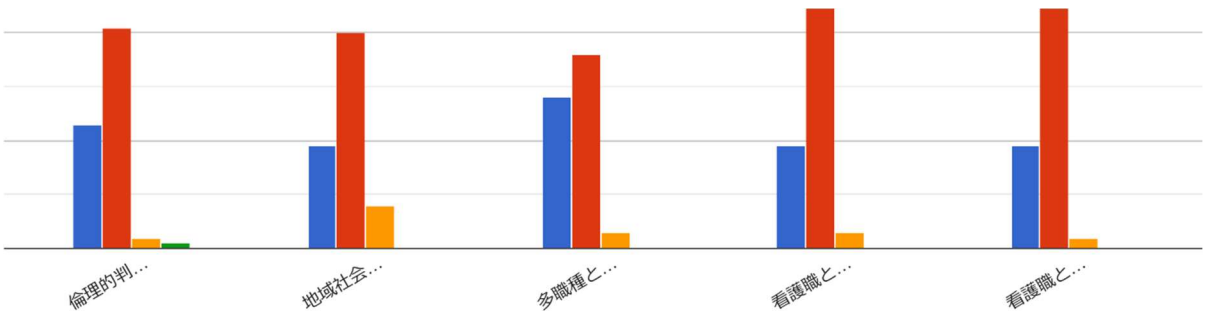
今後のキャリアアップの希望について選択してください（複数回答可）
67 件の回答



V．学部教育の学びの有益性

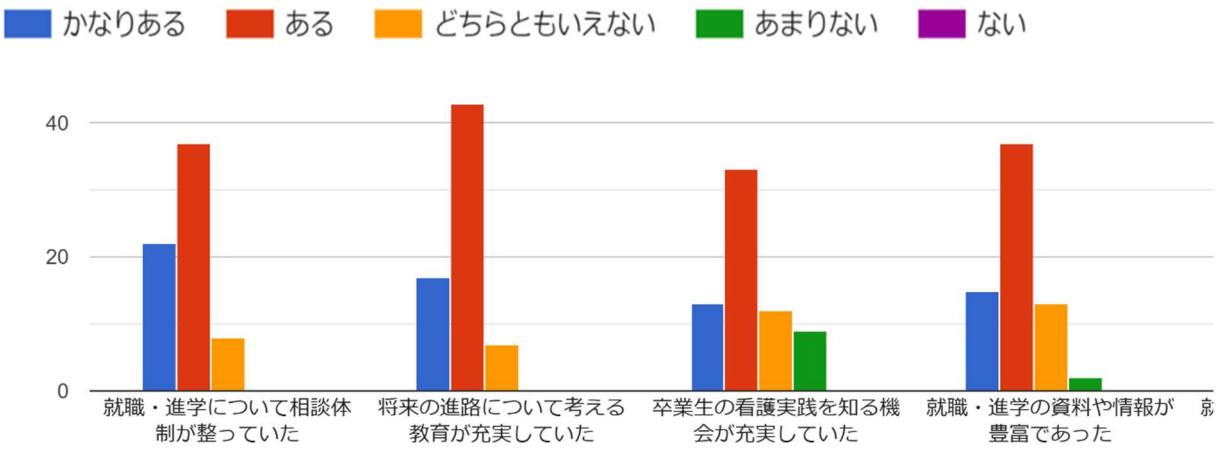


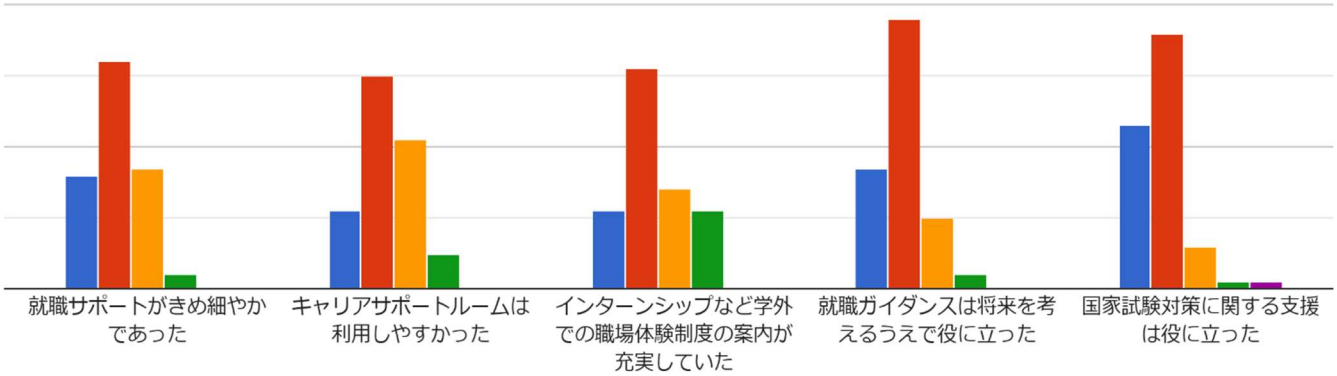
人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重する	多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育成する	看護学の分野で国際的に通用する新しい知識や技術を創造できる能力を育成する	科学的知識に基づき、専門知識や技術を効果的に活用した看護実践ができる能力を育成する



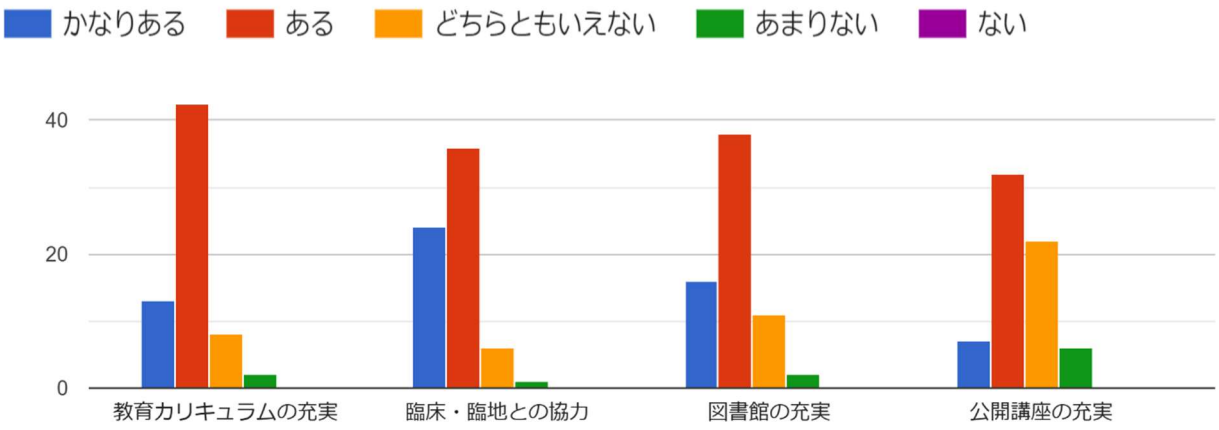
倫理的判断に基づき、専門知識や技術を効果的に活用した看護実践ができる能力を育成する	地域社会の状況と変化を学ぶ	多職種と連携・協働して人々のさまざまな健康課題に取り組むことができる能力を育成する	看護職として専門能力を自律的に探究する	看護職として専門能力を継続的に発展させる姿勢を育成する

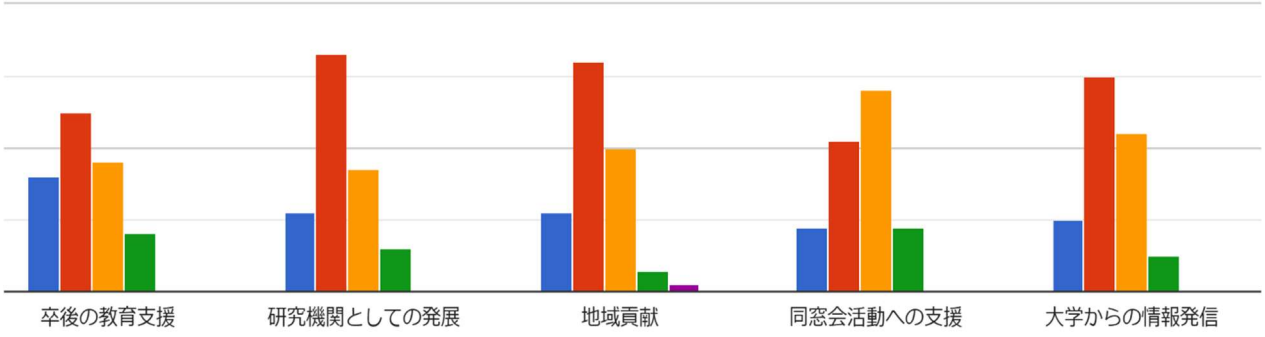
VI. 進路・就職サポートの満足度





Ⅶ. 本学の看護学部教育への期待





以上